

． 具体例で考えるカリキュラム ・ マネジメント

1 . 学校教育目標の具現に向けて、全職員で取り組みのあり方を考えよう

学校教育目標の具現に向けて、必要な人的・物的資源等を確認しよう

グランドデザインを作ってみよう

学校教育目標と学年経営・学級経営・教科運営との関係と、自らの関わりを確認しよう

2 . 教育課程を考えよう（カリキュラムマップを作ろう）

単元配列表を作成しよう

総合的な学習の時間（生活科）を中核として、教科等とのつながりを考える。

単元配列表をシンプルにして、「どのようにつながりか」を検討しよう。

3 . 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行おう

「主体的な学び」を具体的にイメージしましょう。

「対話的な学び」を具体的にイメージしましょう。

「深い学び」を具体的にイメージしましょう。

授業分析から「主体的・対話的で深い学び」について考えよう。

【事例紹介】地域素材を活用した教材開発（地域との連携や協働を含む）

【事例紹介】多様な教育方法を活用し、教科間の関連を意識した授業設計（ICTの活用）

1. 学校教育目標の具現に向けて、全職員で取り組みのあり方を考えよう

ワーク

1 学校教育目標の具現に向けて、必要な人的・物的資源等を確認しよう

自校の強みと弱みを書き出しながら、自校の現状を分析（SWOT分析）しましょう。そして、自校の現状とグランドデザインから、児童生徒の「目指す姿」「育みたい資質・能力」を考えます。

SWOT分析とは

内部環境と外部環境に由来する要素を洗い出し、現状を分析していく手法です。自校の可能性や見逃していた強み、弱みに気づかせてくれる手法ともいえます。

【内部環境】

運営計画・人的物的資源・資金・情報組織体制・組織風土など

【外部環境】

歴史・文化・自然・産業・保護者・地域の方々・近隣学校・関係機関など



自校の現状分析と課題把握			
学校名	児童生徒数 約 名	教職員数 約 名	氏名
1. SWOT分析			
	内部環境		外部環境
プラス面	内部環境 強み (Strengths) ・運営計画 ・人的物的資源 ・資金・情報・組織体制・組織風土など		外部環境 機会 (Opportunities) ・歴史・文化・自然 ・産業・保護者 ・地域の方々・近隣学校 ・関係機関 など
	マイナス面	弱み (Weaknesses) ・運営計画 ・人的物的資源 ・資金・情報・組織体制・組織風土など	
2. 自校のよさや改善策			

手順の例

学校の現状を付箋に書いて、四つの要素に分けて貼り付けていきます。

SWOT分析をもとに、自校のよさや改善策、児童生徒の「目指す姿」「育みたい資質・能力」を考えていきます。



NITS 研修プランA



ワークシート 1

1. 学校教育目標の具現に向けて、全職員で取り組みのあり方を考えよう

ワーク

2 グランドデザインを作ってみよう

自校の強みと弱みから「目指す姿」「育みたい資質・能力」という目標と「そのためにどのような教育活動(取組)を計画、実施するか」という方法を整理しながら、グランドデザインを作ってみましょう。

カリキュラム・マネジメント構想図		学校名	作成者
本校の現状	強み	弱み	
	育みたい資質・能力、目指す姿		
具体的な取組		カリキュラム・マネジメント3つの側面から	
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"><div style="width: 30%;"><p>教科横断的な視点からのアプローチ ※「総合的な学習の時間」「生活科」は中核となるので、可能な限りこの用紙位置付ける。</p></div><div style="width: 30%;"><p>PDCAサイクルの構築からのアプローチ(特にCとAの仕組み作り)</p></div><div style="width: 30%;"><p>人的・物的資源等(地域等の外部の資源も含め)の効果的に活用、組み合わせの視点からのアプローチ</p></div></div> <p>ここに示すように、付箋を色分けしながら使い、この用紙に貼ります。付箋同士をまとめたり、線でつないだりしながら、自由にレイアウトしてまとめてください。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"><div style="width: 30%;"><p>その他 上の3つに当てはまらないことがあればその他として位置付ける。</p></div></div>			

ワークシート2

手順の例

自校の強みと弱みから、児童生徒の「目指す姿」「育みたい資質・能力」を考えます。

そのための具体的な取組を考えます。その際、「教科横断的な視点」「PDCAサイクルの構築」「人的・物的資源等」「その他」の視点からのアプローチを色分けしながら付箋に書き貼っていきます。

付箋を動かしながら、自由にレイアウトしてみましょう。

それぞれの考えを集約しながら、グランドデザインを作成しましょう。

学校の現状や教育活動の方向性について、全職員で共有しながらグランドデザインを作っていきます。

また、学校目標やグランドデザインと自ら(個々の教職員)の関わりについても、確認しましょう。



1. 学校教育目標の具現に向けて、全職員で取り組みのあり方を考えよう

ワーク

3 学校教育目標と学年経営・学級経営・教科運営との関係と、自らの関わりを確認しよう

それぞれの教職員が担当する校務分掌が、「学校教育目標の実現にどうつながっているか」という広い視野から教育活動全体をとらえ、自分のすべきことを明確にしていきましょう。

ポイント

自分の校務分掌が学校教育目標の実現にどうつながっているか

学校教育目標の実現のために

- ・ 求められていることは何か
- ・ どんな取組をいつまでに行うか
- ・ 連携できる係等とどのような協力をしていけばよいか

などについて、職員同士で情報を共有しながら取り組んでいきましょう。



A小学校での取組

学校教育目標「楽しい 豊かな A小学校」

- ずくある「丈夫な子」 ○ねばり強い「かしこい子」
- 美しさがわかり「思いやりのある子」 ○力を合わせて「助け合う子」



全職員でグランドデザインを再検討して、教育活動に関わる認識を共有しましょう。また、学校目標に向けて、職員みんなで子どもたちを育てるという意識を持ちましょう。



これまでの研究テーマは、多くが盛り込まれすぎて、分かりづらいので、新学習指導要領やコロナ禍であることを踏まえながら、シンプルにまとめ直しましょう。

全校研究テーマ「主体的に学び、協働的にかかわれる子どもの育成」

1. “体力・健康”の向上
2. “学力”の向上
3. “コミュニケーション力”の向上



“学力”の向上に関わって自主学習ノートに取り組みます。家庭との連携、ノートの紹介など、継続していくための工夫もしていきましょう。ノートの左側はパッチリメニュー（授業内容の復習）、右側はわくわくメニュー（自分の学びたいこと）で進めてみようと思います。



“コミュニケーション力”の向上に関わって、社会科の町探検で出会った地域の方とのつながりを生かし、自分たちで育てた大豆を使ったみそづくりに取り組んでいます。また、学校周辺で採った木の実などを使って、お店を開き、ペア学年や1年生などの他学年と交流しています。



コロナのため臨時休業となってしまったので、学習内容を見直し、学校でしかできない内容とオンラインでもできる内容とを考えよう。同時に、ZOOMを使った会議をひらいたり、オンライン授業について考えたり職員研修を行おう。

2. 教育課程を考えよう。(カリキュラムマップを作ろう)

自校の「重点とする資質・能力は何か」「どの単元や題材を中心に育成していくか」のイメージを視覚化していきましょう。

カリキュラム・マップを作ることで、子どもたちの学び全体を俯瞰して見たり、重点的に取り組むポイントを確認したりすることができま

カリキュラムマップ作成の手順

ワーク4 - : 単元配列表を作成する。

ワーク4 - : 総合的な学習の時間(生活科)を中核として、教科等とのつながりを考える。

ワーク4 - : 単元配列表をシンプルにして、「どのようにつながるか」を検討しよう。



ワーク1 単元配列表を作成しよう

各教科等の年間指導計画をワークシート3を使い、下の作成例のような一つの表(単元配列表)として表しましょう。

作成例 (B中学校の年間指導計画を基に作成)

行事	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総時数
国語	読者の心を探る アイヌの伝説	読者の心を探る 読者の心を探る	読者の心を探る 読者の心を探る	読者の心を探る 読者の心を探る	読者の心を探る 読者の心を探る	読者の心を探る 読者の心を探る	読者の心を探る 読者の心を探る	140
社会	日本のさまざまな地域 日本の姿	世界のさまざまな日本の 自然環境	世界のさまざまな日本の 自然環境	世界のさまざまな日本の 自然環境	世界のさまざまな日本の 自然環境	世界のさまざまな日本の 自然環境	世界のさまざまな日本の 自然環境	105
数学	数の性質	数の性質	数の性質	数の性質	数の性質	数の性質	数の性質	105
理科	物質のなり立ち	物質のなり立ち	物質のなり立ち	物質のなり立ち	物質のなり立ち	物質のなり立ち	物質のなり立ち	140
音楽	夢の世界を	夢の世界を	夢の世界を	夢の世界を	夢の世界を	夢の世界を	夢の世界を	35
総合	「はたらく」ことを考える (70時間) ・どんな仕事があるんだろう ・「はたらく」人たちの思いに触れる							70
美術	私のてぬい	私のてぬい	私のてぬい	私のてぬい	私のてぬい	私のてぬい	私のてぬい	35
保体	体づくり運動 オリエンテーション スポーツテスト	体づくり運動 オリエンテーション スポーツテスト	体づくり運動 オリエンテーション スポーツテスト	体づくり運動 オリエンテーション スポーツテスト	体づくり運動 オリエンテーション スポーツテスト	体づくり運動 オリエンテーション スポーツテスト	体づくり運動 オリエンテーション スポーツテスト	105
技芸	衣生活と自立(家)	衣生活と自立(家)	衣生活と自立(家)	衣生活と自立(家)	衣生活と自立(家)	衣生活と自立(家)	衣生活と自立(家)	70
英語	はじめての英語(進歩)	はじめての英語(進歩)	はじめての英語(進歩)	はじめての英語(進歩)	はじめての英語(進歩)	はじめての英語(進歩)	はじめての英語(進歩)	140
道徳	上級生として生活する	上級生として生活する	上級生として生活する	上級生として生活する	上級生として生活する	上級生として生活する	上級生として生活する	35

ポイント

○ 記入例のように、総合的な学習の時間(生活科)を中核にすると、各教科等との関連が見やすくなります。

○ 記入例のような『「はたらく」ことを考える』などの年間テーマを自校のグランドデザイン等をもとに設定することで、活動ごとのつながり(横のつながり)を意識しながらデザインしていきましょう。

○ 他学年の単元配列表も確認することで、学習内容の系統性を考えることもできます。



2. 教育課程を考えよう。(カリキュラムマップを作ろう)

ワーク

1. 総合的な学習の時間(生活科)を中核として、教科等とのつながりを考える。

総合的な学習の時間の時間を育成を目指す資質・能力を中核として、育成する資質・能力でつながりのある単元を線で結んでいきます。学校目標や総合的な学習の時間の年間テーマなどから、その年に重点をかける部分の線を赤くすると、より視覚化されます。

また、それぞれのつながりを考えながら、教科等の単元配列の変更も検討することもできます。

作成例 12年度 ○○中学校 2学年 年間指導計画

行事	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総時数
国語	読まないだけ アイスブレイク	読草子 多様な方法で情報を探る	生物が記録する科学的な探査をしよう	新しい短歌のために言葉を探そう	世界で一番の贈り物	松土産 学のない葉書	モアイは語る	君は1歳後の成長を知っているか	縦書きで書こう	走れ! ロス	方言と共通語	一年間の学びを振り返ろう	140
社会	日本のさまざまな地域 日本の姿	世界から見た日本の自然環境	世界から見た日本の資源	世界と日本の結びつき	ヨーロッパ人の出立	産業の発達と幕府政治	中国・四国地方 近畿地方	中部地方 関東地方	東北地方 北海道地方	日本をながめて	明治維新	日清・日露戦争と近代産業	105
数学	式の計算	連立方程式	一次関数	二次関数	(継続) 調査	動物の分類	気象多観測と雲の動き	電線とそのまわりの天気	静電気と電流	電流の性質	電流と磁界	(継続) 調査	105
理科	物質のなり立ち	物質どうしの化学変化	化学変化と物質の質量	生体と細胞	(継続) 調査	動物の分類	気象多観測と雲の動き	電線とそのまわりの天気	静電気と電流	電流の性質	電流と磁界	(継続) 調査	140
音楽	夢の世界奏	夢の世界奏	クラス合唱、学年合唱	クラス合唱、学年合唱	クラス合唱、学年合唱	クラス合唱、学年合唱	クラス合唱、学年合唱	クラス合唱、学年合唱	クラス合唱、学年合唱	クラス合唱、学年合唱	クラス合唱、学年合唱	クラス合唱、学年合唱	35
総合	<p>「はたらく」ことを考える (70時間) ・どんな仕事があるんだろう ・「はたらく」人たちの思いに触れる</p> <p><修業旅行学習> 自分たちで企画、運営することで問題解決力を養う グループでの活動を通して、集団の中での自分の役割を認識した行動を学ぶ</p> <p><職場体験学習> 社会全体の広い視野から自分を見つめ、自分が大切にしたい生き方を追求することで、自分の可能性や課題を見出す 地域社会の中で、働くことの楽しさや出たつあひの生き方や道にさかきに触れながら、自分の生活を直視し、志願力や自立心、責任感を身に付けるとともに、地域社会の一員としての自分を見出す。</p> <p><人権学習> 校友会選挙 選挙活動を通して、民主主義になる自覚を身に付け、集団の中で自分に何ができるのかを考え、責任を持つ。</p> <p><人権学習> お互いの理解を深め、開かれた学級をつくる。 差別や偏見に気づき、問題を正しく理解し、判断できる力を育てる。 差別の歴史や現実から学び、差別を見直し、自覚を養う。</p> <p><修学旅行学習> 学習旅行や遊学旅行を計画・実行することで、企画力や実行力を伸ばす機会とする。 日常生活の場を離れ、旅、学級、学年による集団行動を体験することによって、自己の判断で責任ある行動をとることを学ぶ機会とする。</p>												70
美術	私のために	私のために	私のために	私のために	私のために	私のために	私のために	私のために	私のために	私のために	私のために	私のために	35
体育	体づくり運動	陸上競技	ネット型ボールゲーム	ネット型ボールゲーム	ネット型ボールゲーム	ネット型ボールゲーム	ネット型ボールゲーム	ネット型ボールゲーム	ネット型ボールゲーム	ネット型ボールゲーム	ネット型ボールゲーム	ネット型ボールゲーム	105
技家	衣生活と自立(家)	衣生活と自立(家)	衣生活と自立(家)	衣生活と自立(家)	衣生活と自立(家)	衣生活と自立(家)	衣生活と自立(家)	衣生活と自立(家)	衣生活と自立(家)	衣生活と自立(家)	衣生活と自立(家)	衣生活と自立(家)	70
英語	L1.L1.L1	L2.L1.L1	L3.L1.L1	F.S1.L1	L3.L1.L1	L4.L1.L1	L5.L1.L1	L6.L1.L1	L7.L1.L1	L8.L1.L1	L9.L1.L1	P3.L1.R2	140
道徳	上級生として生活する	上級生として生活する	上級生として生活する	上級生として生活する	上級生として生活する	上級生として生活する	上級生として生活する	上級生として生活する	上級生として生活する	上級生として生活する	上級生として生活する	上級生として生活する	35



社会科の近畿地方の学習は、修学旅行学習に生かせそうですね。1学年で学習した歴史も修学旅行につながりますね。



総合的な学習時間の年間テーマを具現化するために、特に職場体験は大切にしたいですね。関わる部分を赤にしてみましょう。



職場体験後に国語「気持ちを込めて書こう」を配列すれば、お礼状を書くことに生かすことができそうですね。

2. 教育課程を考えよう。(カリキュラムマップを作ろう)

ワーク

1. 単元配列表をシンプルにして、「どのようにつなぐか」を検討しよう。

つながりをもとに単元配列表をシンプルにすることで、重点的に取り組むポイントが見えやすくなります。単元配列表が線でいっぱいになると、複雑になり、実現の可能性が低下します。そのため、特に「重点とする資質・能力は何か」などの視点を決め、線を精選していくとよいでしょう。

シンプルになった単元配列表(カリキュラムマップ)をもとに、つながれた単元同士を「どうつなぐか」を検討しましょう。また、地域資源の活用やICTの活用ができそうな単元についても、考えてみましょう。

作成例

令和2年度 ○○中学校 2学年 年間指導計画

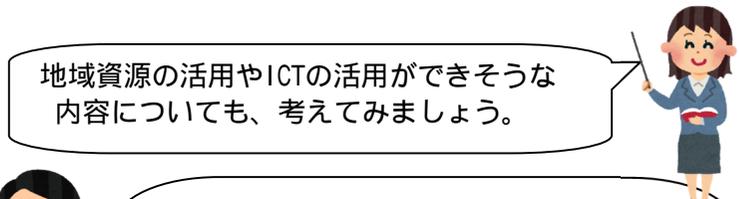
月/教科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総時数
行事	始業式・入学式		修学旅行			山・公園祭		校友会正副会長選挙	校友会総会				
国語		多様な方法で課題を 読めよう	多様な方法で課題を 読めよう			気持ちを込めて書こう		話し合ってみよう	書き合ってみよう	書き合ってみよう		表現のしかたを工夫しよう	140
社会							近畿地方						105
数学													105
理科													140
音楽				クラス合唱、学年合唱発表会		クラス合唱、学年合唱発表会							35
総合	<p>「はたらく」ことを考える (70時間) ・どんな仕事があるんだろう ・「はたらく」人たちの思いに触れる</p> <p><総合科学習> 自分たちで企画、運営することで課題解決を目指す。 グループでの活動を通じて、各課の中で自分の役割を認識した行動を学ぶ。</p> <p><職業科学習> 社会科の深い理解から自分を見つける。自分が大得意にしたい仕事を発見することで、自分の可能性や課題を思い出す。 異業種の中で、働くことの面白さや楽しさや苦労を互いに伝えながら、自分の未来を思い出し、支え合いや支えられ、互いに励みあうことにより、異業種の一員としての自覚を育てる。</p> <p><山・公園祭> 校友会委員の行事として、学校の自治体・文化活動等を果たす機会とする。 展示・販売活動の企画・特別活動の学習、文化祭の校内における発表の機会とする。 校友会が主体となって、一つのテーマのもと企画、実施、展開し、達成感や達成の機会とする。</p> <p><校友会選挙> 選挙活動を通して、選挙活動に必要となる資質・能力を身に付ける。 選挙活動を通して、選挙活動に必要となる資質・能力を身に付ける。</p> <p><人権学習> お互いの理解を深め、固執した学習をつくる。 授業や部活に気づき、課題をまじく理解し、判断できる力を身に付ける。 近隣の歴史や文化から学ぶ、近隣の歴史や文化を伝える機会を創出する。</p> <p><修学旅行学習> 修学旅行や遠征活動を通じ、実行することで、多様な文化や行動を体験する機会とする。 社会科の学習を深め、家、学校、学年による異業種体験することにより、自己の判断で実行する行動をとることを学ぶ機会とする。</p>												70
美術													35
保健													105
技家							ロボコン(技)	ロボコン(技)					70
英語				自然語彙、単語集(本業科、英語)					混合授業のプレゼンテーション(英語)	プレゼンテーション			140
道徳		上書きとして生活する	書き合ってみよう		働くことについて考える	働くことについて考える			自分の未来を思い出し、支え合いや支えられ、互いに励みあうことにより、異業種の一員としての自覚を育てる。				35



生徒たちが修学旅行で京都の街並みを実感できるように、社会科の近畿地方「古都の成り立ちと現在」では、写真など視覚的な教材を多く使いたいです。



職場体験後のお礼状が書けるよう、国語「気持ちを込めて書こう」では、生徒が「相手や目的を意識して書く」とはどのようなことか具体的に考える場を十分に確保したいです。



地域資源の活用やICTの活用ができそうな内容についても、考えてみましょう。



コロナ禍で例年のような職場体験はできない。地域の方々に学校に招いて、仕事に対する思いを語っていただくのはどうだろう。
英語のプレゼンテーションでは、生徒がICTを活用しながら発表する場が作れそうだ。

3. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行おう

1 「主体的な学び」を具体的にイメージしましょう。

「主体的な学び」の視点は、学習指導要領の解説で次のように示されています。これを具体的な子どもの姿や子どもの言葉にして考えてみましょう。その姿や言葉を引き出すためにどのような手立てができそうか、考えやすくなります。

【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

【主体的な学びにつながる言葉（例）】



「先生、今日は〇〇をすることになっていたよね。」



「私は、今日は〇〇について調べてみたい。」



「ぼくは、こういうことが分かった。次はこういうこともしてみたい。」

など

他にも、主体的な学びにつながる言葉にはどんなものがあるか、具体的な子どもの言葉で考えてみましょう。

【主体的な学びを実現した子どもの姿】として、

自分の学びをコントロールできること

が期待されます。具体的な姿として、以下のようなものが考えられます。

<p>主体的な学び 興味や関心を高める</p>	NITS【実現したい子供の姿】
<p>主体的な学び 自分と結び付ける</p>	<p>主体的な学び 見通しを持つ</p>
<p>主体的な学び 振り返って次へつなげる</p>	<p>主体的な学び 粘り強く取り組む</p>

「子どもたちにこんな言葉を言ってもらいたい」と考えると、そのための手立てが考えやすくなりますね。

さらに、

「先生。今日は何やるの?」や「先生。何すればいい?」などの受け身の言葉を主体的な学びにつながる言葉に変えていくには、どのような授業改善ができそうかについて、考えてみましょう。



3. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行おう

2 「対話的な学び」を具体的にイメージしましょう。

「対話的な学び」の視点は、学習指導要領の解説で次のように示されています。これを具体的な子どもの姿や子どもの言葉にして考えてみましょう。その姿や言葉を引き出すためにどのような手立てができそうか、考えやすくなります。



【対話的な学び】

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現でき

(学習指導要領解説 総則編 第3章第3節1の(1))

【対話的な学びにつながる言葉(例)】



「先生、友だちの考えも聞いてみたい。」



「私は〇〇と考えます。理由は〇〇だからです。」



「Aさんの考えもいいね。(自分の考えと比較して)こういうことが考えられた。」

など

他にも、対話的な学びにつながる言葉にはどんなものがあるか、具体的な子どもの言葉で考えてみましょう。

【対話的に学びを実現する子どもの姿】として、異なる様々な他者と対話することが期待されます。具体的な姿として、以下のようなものが考えられます。

が期待されます。具体的な姿として、以下のようなものが考えられます。

NITS【実現したい子供の姿】

対話的な学び	対話的な学び
多様な情報を収集する	互いの考えを比較する
対話的な学び	対話的な学び
多様な手段で説明する	思考を表現に置き換える
対話的な学び	対話的な学び
共に考えを創り上げる	先哲の考えを手がかりとする
対話的な学び	対話的な学び
共に考えを創り上げる	協働して課題解決する

グループの意見交換で「先生、終わった。どうすればいい？」などの姿を対話的に学ぶ姿に変えていくには、どのような手立てが考えられるでしょう。例えば、

○「自分の考えをより確かなものにしたい」等の目的意識をもって意見交換できるようにする

○「どこに焦点を当てて自分の考えと比較するのか」等の視点を明確にする

などが考えられます。

他にどのような手立てがあるか、考えてみましょう。



3. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行おう

3 「深い学び」を具体的にイメージしましょう。

「主体的な学び」の視点は、学習指導要領の解説で次のように示されています。これを具体的な子どもの姿や子どもの言葉にして考えてみましょう。その姿や言葉を引き出すためにどのような手立てができそうか、考えやすくなります。



【深い学び】

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

(学習指導要領解説 総則編 第3章第3節1の(1))

【深い学びにつながる言葉(例)】



「(まとめると・情報を精査すると)つまり、こういうことだね。」



「〇〇ならば、こういうことも考えられるのではないだろうか。」



「〇〇だから、次はこうすればよさそうだね。」 など

他にも、深い学びにつながる言葉にはどんなものがあるか、具体的な子どもの言葉で考えてみましょう。

【深い学びを実現する子どもの姿】として、自分の知識や技能を相互につなげることが期待されます。具体的な姿として、以下のようなものが考えられます。

深い学び 思考して 問い続ける	深い学び 知識・技能を 習得する
深い学び 知識・技能を 活用する	深い学び 自分の思いや考 えと結び付ける
深い学び 知識や技能を 概念化する	深い学び 自分の考えを 形成する
深い学び 新たなものを 創り上げる	

NITS【実現したい子供の姿】

深い学びを実現するために、どのような授業改善ができるか、考えてみましょう。例えば、

- 対話的な関わりのある授業展開の構築
 - 自分の考えに根拠をもって、分かりやすく表現する活動の設定
 - 広がった知識を整理したり順序だてたりする活動の設定
 - 学習したこと振り返り、学習問題に対する自分の答えについて熟考する場面の設定
- などが考えられます。

他にどのような授業改善ができそうか、考えてみましょう。

3. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行おう

ワーク

4 授業分析から「主体的・対話的で深い学び」について考えよう。（校内研修）

授業での子どもの学びの姿を「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」に分類する授業研究会を行ってみましょう。3つの学びの視点を養うことにつながります。

手順（例）

研修の説明【全体】（5分）

協議【グループ】（20分）

共有【全体】（10分）

授業者自評【全体】（5分）

振り返り【全体】（5分）

研修の説明

目的と流れについて説明する。

NITS 研修プランA4

共有

自分のグループと他グループの違いに着目して説明を聞く。

授業者自評

協議や共有を受けて、授業者による振り返りを行う。

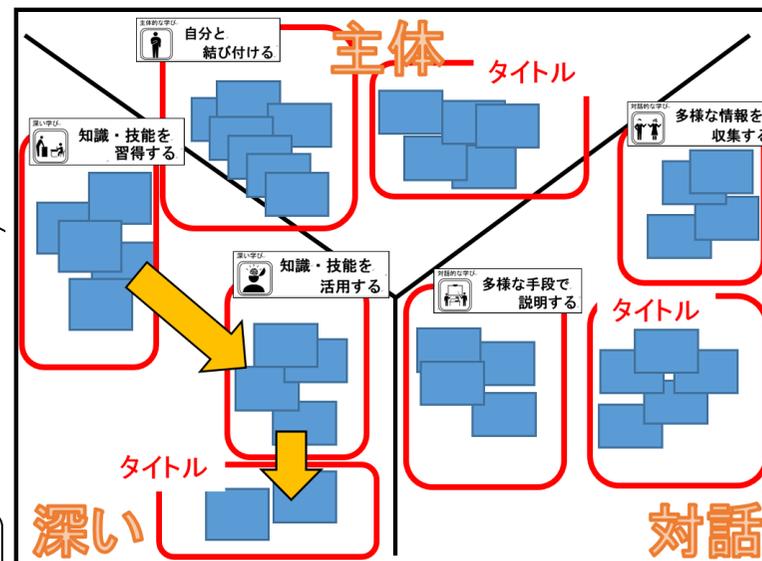
振り返り

本時の研修を通して学んだことを共有する。

協議(グループ)

○児童・生徒の学びを付箋に書き、Yチャート(模造紙など)上に分類する。

児童・生徒の学びにタイトルを付ける。
模造紙のイメージ



(独)教職員支援機構:「研修プランA4」より

どのような活動や支援が3つの学びにつながるのかを子どもの姿から見取ることで、日々の授業改善につなげていきましょう。



3. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行おう

5 【事例紹介】地域素材を活用した教材開発(地域との連携や協働を含む)

長野市立長野中学校の総合的な学習の時間では、市立長野高校との接続を踏まえながら、系統立てた全体計画を作成し、地域素材を活用した探求課題に取り組んでいます。

右は、1学年「長野市で生きる私」をテーマに農業体験学習として行った「キセキの味噌復活！プロジェクト」の事例です。

指導のポイント

- ・ 小学校6年生で体験した台風災害で、地域に起こった具体的な事実と出会い、災害からの復興や農業の振興に取り組むプロジェクトに、学校として参加し、実際に活動する中で自分や学年の願いを実現していく。
- ・ 災害が起こるメカニズムや被害の実態、復興への取組等、幅広い学習内容の中で、生徒自身が問いを立て、調査や体験を通して、問の答えを見出す学習を仕組む。
- ・ 「被災した味噌蔵の復活」という、分かりやすいテーマを設定し、そのプロジェクトに取り組む味噌蔵の社長や食育を広めるNPO法人の方などの関わりを通して、人とつながりながら、願いを実現する過程について実感を伴って理解できるようにする。

地域の具体的な事実との出会いを大切にし、実際の活動を通して、生徒自身が立てた問いの答えを見つけ出していく学習展開、人とのつながりによって実感を伴った理解ができるようにしている点などが、参考になりますね。

詳しくはポータルサイトから「長野市の教育」をご覧ください。

「味噌の復活は復興のシンボル」「今度は自分たちで考えていきたい」
(11月9日・総合的な学習)

長野市立長野中学校

自らが設定した「問い」を追究する楽しさを実感できる総合的な学習の授業づくりを目指します。教師主導ではなく、生徒の声や思いを大切に、授業を展開していきます。



【授業の様子から】

生徒たちと共に「キセキのみそ復活！プロジェクト」に取り組んでいるNPO「コラボ」の方々も参観し、生徒にアドバイスいただきました。

【生徒の追究の様子】

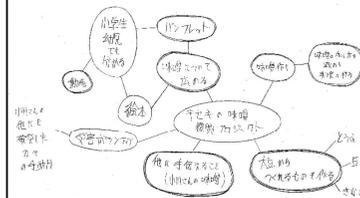
イメージマップの書き込み

A生
味噌作り見学・体験→キセキの味噌の魅力を調べる→大豆作りから味噌作りまでのことをまとめたパンフレットや動画を作成する→5期生(後輩)に紹介する

振り返り(学習カードより)

N生：今までのプロジェクトの内容は先生が教えてくださったけど、これからは自分たちなので、気をひきしめていきたい。
R生：ボランティアなどに参加するときに、行事としていくのではなく自分が何のために参加しているのか、何のためのボランティアなのかを考えたい。
M生：味噌の復活は復興のシンボルになるだろうし、大豆で何か作って被災した方や小川さんにつながるみたい。

【イメージマップの実例】



授業を終えての授業者の思い

○小川さんと一緒に育てた大豆を使って「味噌をつくりたい」という生徒たちの強い思いを実感できたことが嬉しかったです。味噌を作ることは、「復興のシンボルにつながる」、「今まで活動を応援して下さった小川さんや飯島さんへ感謝の気持ちを伝えられる」など、活動の意味まで考えられていた生徒たちの姿に感動しました。一つ一つの活動に、どのような意味があるのか、生徒に問い返ししながら一緒に活動を考え、進めていきたいです。

参観していただいた皆様の声

- 関わった地域の方を招いての授業は素敵でした。
- 味噌について非常に興味・関心をもって取り組んでいることが、活動の様子から伝わってきました。
- 1時間の中で、2つシンキングツールを使って考えることは、時間的に難しかったようです。

3. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行おう

6 【事例紹介】多様な教育方法を活用し、教科間の関連を意識した授業設計 (ICTの活用)

C中学校では、右の活用例のように各教科の様々な場面でICTを活用しています。ICTを活用した1学年社会科「武士の台頭と鎌倉幕府」の実践例を紹介します。

ICT活用した授業の様子

生徒は、一人一台の端末をもって授業がスタートしました。

- ・導入の【ペア学習】では、各自の端末に送られた写真を見ながら比較し、話し合う姿がありました。
- ・追究の【個別学習】では、オンライン上で自分の考えを記入しました。画面には他の生徒の考えも更新されるので、誰がどんな考えを持っているか確認することができます。【協働学習】では、同じ考えを持つ生徒同士が集まって、理由を説明し合ったり、別の考えと比較したりする姿がありました。
- ・まとめの【個別学習】では、学習内容に関わる振り返りと学習活動に関わる感想をオンライン上で記入し、画面を通して共有しました。

【C中学校のICT活用例（一部）】

- ビデオ会議機能を利用した遠隔授業
- 生徒端末で作成したプレゼンテーションソフトを用いて全体発表
- 作成した教材動画を配信
- 投稿したプレゼンテーションソフト等のファイルと同時に書き込む協働学習
- 学習内容の記録ポートフォリオ機能として活用

Teamsを利用した実践例

【社会科】

授業日 令和3年1月28日（木） 授業学級 1年A組 35名
 授業者 C中学校 A教諭
 単元名 武士の台頭と鎌倉幕府 本時の位置 全6時間扱い中 第6時
 本時の主眼 平安時代と鎌倉時代のちがいを①政治の仕組み、②人々の暮らし③文化の3つの視点から比較し、時代の特色を捉えて説明できる。

段階	学習活動	実際の様子
導入	○平安時代と鎌倉時代の様子を3枚の写真から比較し、ちがいを話し合う【ペア学習】 【学習問題】 平安時代と鎌倉時代にはどのようなちがいがあるのだろうか？	 手元の画面を見ながら、「ちがい」を指差しながら対話する姿が見られた。服装や指導者、住居などについて気づく生徒が多かった。
追	【学習課題】 ①政治の仕組み②人々の暮らし③文化の視点から、平安時代と鎌倉時代のちがいをPPに書き込んでみよう。 【個別学習】 ・オンライン上で各視点のスライドにあるテキストボックスにちがいについて気づいたことを同時に記入していく。【使用ソフト：PP】	人々の暮らしのちがいを一言でまとめると 【個別学習】 ①政治の仕組み②人々の暮らし③文化の視点から、平安時代と鎌倉時代のちがいをPPに書き込んでみよう。 【個別学習】 ・オンライン上で各視点のスライドにあるテキストボックスにちがいについて気づいたことを同時に記入していく。【使用ソフト：PP】
究	○視点ごとのグループに分かれて2つの時代のちがいについて、「同じ気づき」について記入したテキストボックスを画面上で移動させていく。【協働学習】 ○同じようなちがいについて、テキストボックスをまとめた生徒間で、そう考えた理由について説明し合う。【協働学習】 ・「様々な宗教を信じるようになった」と記入したのは、様々な宗教が信じられるようになったからです。そのことは教科書の…に示されています。	画面の拡大図 【新しい仏教グループ】 様々な宗教を信じるようになった。（園田） 宗教の宗派が増えていき、信りされるようになった。（博田） 新しい仏教が広まった。空澤結月 
まとめ	○Teamsの資料掲示を行った投稿欄に 1 今日の学習でわかったこと 2 PCを使って学習してみた感想 を記入する。【個別学習】	シバ ミコ 01/28 11:39 ① 政治の仕組みの違いは平安時代は天皇中心、鎌倉時代は武士中心ということがわかりました！！ ② パソコンを使って楽しく平安時代と鎌倉時代の違いについて学ぶことができたので良かったです！ あまり発言しない人もたくさんいました。 （心優） Teamsの「返信欄」にふりかえりを記入
成果と課題	【○成果】 ・Teamsを利用することで、同時編集による協働学習が可能になり、生徒の追究意欲が高まった。また、ふりかえりを返信することでポートフォリオとしての機能を持たせることができた。	【▲課題】 ・機器への操作が慣れていないと、タイピングに時間がかかってしまった。協働して話し合う時間を十分に確保することが難しかった。



ICTを活用を進めることで、教師も子どもたちも個々の考えを容易に共有できるようになります。そのため、理由の説明や考えの比較等の協働学習に多くの時間を使うなど、授業展開の工夫が可能になります。また、ポートフォリオとしても